

〔社 会 部 門〕

1. 団体名 やまぎと はいこうりょうびじゅつかんきょうせい さと
山里の廃校利用美術館 共星の里
- くろかわ びじゅつかん
黒川INN美術館
2. 分野 廃校利用のアート空間
3. 設立年 平成12年（22年目）※R3.11.1現在
4. 所在地 朝倉市



【経歴及び選考理由】

平成10年、過疎化により廃校となった旧甘木市（現朝倉市）の黒川小学校（平成7年3月31日廃校）の校舎有効利用に係る企画の一般公募が行われ、卒業生である尾藤悦子氏と夫・長司氏、長司氏の高校時代の美術部の先輩でアーティストの柳和暢氏らが、アート空間として「共星の里」を提案。全国から寄せられた28件の案の中から、同企画が採用される。

開館に向け、旧甘木市は約5,000万円をかけて校舎の改修を行い、平成12年「共星の里」が開館。

代表に尾藤長司氏・悦子氏夫妻、アートディレクターに柳和暢氏が就任する。

『人と自然とアートの融合』『二つのソウゾウリョク【想像力・創造力】を高めよう!』をキーワードに、柱の一つである「黒川INN美術館」では、常設展に加え開館以来年間5本の展覧会を企画、これまでに100本以上の企画展を開催し、国内外のアーティストのオリジナル現代アートを屋内外に展示している。また、開館当初から「世界こども美術館」として世界中の子どもの絵も収集、展示。子どもから大人まで楽しめる石ころ・Tシャツ・段ボールアートなどの体験ができる「ワークショップ」では、様々なアートを創作する機会を提供するほか、コンサートや地元と連携した農業体験など多彩な活動を展開。小・中学校の修学旅行やアートキャンプ・レジデンス・国際交流も受け入れている。「多様性を認め合えるのがアートの力」という思いから、障がい者アートの展示活動も広がり、平成15年、16年、18年には地元の原鶴温泉街に障がい者施設に所属する作家の作品を展示する「エイブルアート展in原鶴」を開催した。

100年前のエジソンの蓄音機の生音をはじめ、明治・大正・昭和の蓄音機の懐かしい音が聴ける「メモリアルサウンドルーム」は、子どもたちの貴重な学習の場となっている。

また、懐かしい木の温もりを感じる木造の旧講堂の「黒川INNレストラン」は、ユニークな作品などが飾られるアート空間となっており、四季折々の地元の食材を使った食事が楽しめるレストラン及び作家の作品が気軽に購入できるギャラリーとして親しまれ、地域のお祭りや敬老会・同窓会・シンポジウムの会場としても使用されている。

同館は、平成29年九州北部豪雨災害において一時休館したものの、多数のボランティアの協力もあり、翌春3月1日には再開。親子で楽しむ美術イベントを開催するなど、被災者を元気づけ、地域の活性化を図り、被災地復興に大きく貢献した。

このように「共星の里」は、地域と人、アートを結ぶ拠点として、ここを訪れる人はもちろん、アーティストや創作活動をする人、運営を手伝うボランティアの人、さらにここに暮らす地元の人を結ぶ場所として長きにわたり人々の繋がりを生み出しており、地域文化の向上・発展に大きく貢献している。



展示された美術品

ワークショップの様子

（参考）社会部門：地域の特性を活かした活動を行い、個性豊かで潤いのある地域社会づくりに功績があったもの
又は国際交流、地域間交流など広範な文化交流活動を行い相互理解、文化交流の発展に貢献したもの